

講釋の縁起（由来）

高島組は高島市を1組とし、本願寺派寺院32ヶ寺をもって構成しています。南は滋賀組・大津組を経て京都へ、北は小浜・敦賀（福井教区）につながり、交通の要路であると同時に、浄土真宗の教学や思想的にも京都・北陸の影響を受けることが少なくありませんでした。また、高島組内には、中江藤樹（陽明学者）・浅見綱斎（朱子学）・渡忠秋（国学）の三哲の刺激もあり、向学心に燃える学徒も多かったといえます。

その時代、高島組は真宗学の研究会を設立することを企画し、本山に申請していましたが、時あたかも、学林（当時の学校）が初めて勸学職（教学の研鑽を極めた指導者）を置き、文政7（1824）年に安居本講（僧侶の勉強会）を命じられました。その翌年文政8（1825）年、本山は高島組学徒の熱望を受け、勸学を差し向け（出講）られました。（黄袈裟をかける理由）

これが高島組講釋のはじまりです。

爾来、毎年欠かさず「講釋」と称し、継続すること196年、本山より勸学あるいは司教・補教等が派遣され講義が行われてきたのです。門信徒向けには、速夜・初夜における法話をもって公開し、市内挙げての一大行事となってきました。

また、教興院良如上人は学林（現：龍谷大学）の創設者であり、法要を勤修する因もここにあるのです。



注意事項

- (1) 新型コロナウイルス感染症感染状況を鑑み、会場を藤樹の里文化芸術会館でご参拝・お聴聞していただきます。本願寺の法要ガイドライン（新型コロナウイルス感染症防止）にもとづき、入館時マスクの着用・アルコール消毒及び体温確認をさせていただきます。ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。
- (2) 藤樹の里文化芸術会館客席は四席に一名着席となっています。事後発症対応として入館時、お名前・所属寺院・連絡先(☎)を記帳していただきます。
- (3) 駐車場 眞光寺駐車場・勝満寺庫裏藤樹の里文化芸術会館及び安曇川図書館駐車場
- (4) 新型コロナウイルス感染症に関し緊急事態宣言に準ずる宣言が発令された場合、又、会館関係者より発症者が出た場合は、講釋（速夜法要・初夜法要含む）は休講という処置をさせていただきます。その節には、各寺院御住職に連絡させていただくとともに、ポスター掲示をさせていただきます。